

## 工業炉業界ビジョン（概要）

工業炉業界は、工業炉の製造を専業としている中小企業群と、一部の大手鉄鋼メーカー、総合機械メーカーが兼業として工業炉も製造している大手企業群から成り、これを同じ土俵で論ずるのは無理がある。

従って、本ビジョンにおいては、会員数の大多数を占める中小企業群を主たる対象として、その現状と問題点を整理し、大手メーカーも参画してこれを解決し、あるべき姿を実現するための今後の取り組みについて考察したものである。

### 今後の取り組みについて

今後、工業炉業界は、提案型の独立企業として積極的にユーザー産業（例、自動車産業、鉄鋼産業等）に提案してゆく姿勢が必要。そのため、新たな技術開発に努め、積極的に技術提案を行ってゆきたい。（参照『技術開発課題への対応』）

高性能工業炉は、鉄鋼業、金属製品製造業、電気機械工業等に広く普及・導入されてきているが、今後は中小企業ユーザーにも広く普及させてゆきたい。そのため、低コストで導入可能な小型の高性能工業炉の開発が必要。

工業炉に関する国際標準化事業は、今後も積極的に展開してゆく。

（社）日本工業炉協会主催で、新人研修会（主として技術）を実施してきているが、今後は技術、技能の後継者育成のため中堅技術者向けの研修プログラムを異業種の素形材産業との交流という観点も念頭に入れて、実施してゆきたい。

従来技術、熟練技能者、人に付いたノウハウ等が失われてゆくことを防止するための方策（デジタル化、基準化、標準化等）の検討が必要。

下記の業界基準作りを進めてゆく。

- 試運転引き渡しに関する一般基準
- 技術基準（例、熱効率基準、品質評価基準、環境負荷基準）

### 技術開発課題への対応（提案）

過日の『素形材技術戦略』でリストアップされた重要な技術開発テーマ（熱技術分野については 11 テーマがある）の中で、コンセンサスの取れるものについて、ナショナル・プロジェクト方式で実施することを提案したい。

このプロジェクトには、下記のグループの参画を考えたい。

- 関係する素形材産業
- 関係する大手ユーザー企業
- 国の研究機関
- 大学の研究機関
- 公設の研究機関